

## 警視廳巡査入院規則第十五條追加

警視廳達文八年五月十九日  
規第百九十九號

巡査入院規則第十五條左ノ通追加候條此旨相達候事  
第十五條 前條諸規則ニ違犯スル者ハ巡査懲罰例ニ照シ相當ノ處分可致事

八年十月警視廳達文第百四號ニ依テ消滅ス  
巡査懲罰例ハ警視廳七年六月規第五百五十八號ヲ以テ送スル所ナリ刑法門禁治ノ目ニ載ス

警視廳第五分廳内ニ警

警假本病院ヲ開院ス

警視廳達文八年十二月二十四號

四年十月警視廳達文第百四十六號ヲ以テ本病院ノ名稱ヲ廢シ即五病院ヘ合併ス

第五分廳設置ハ警視廳八年四月文第五十九號ヲ以テ送スル所ナリ官職門地方官副ノ目ニ載ス

警視假本病院職務心得并病院規則

九年一月警視廳達文第百十號正ス

警視廳達文八年十月十一日  
規第百二十九號

## 警視廳達文第百二十九號

## 警視假本病院職務心得并病院規則

警視廳達文八年十月十一日  
規第百二十九號

## 警視廳達文第百二十九號

九年一月警視廳達文第十七號ヲ以テ職務心得改正ニ付院長當直醫等ノ名稱ハ廢止心得シム

八年十月警視廳達文第百三十六號ヲ以テ第一章第三項ヘ但書ヲ追加ス

- 第三 小破營繕及ヒ書籍器械ノ買入其他費用ニ關スルモノハ一切本廳へ伺出ツヘシ
- 第四 院省使府縣等他向ヘ文通往復スルハ總テ本廳ヲ經由スヘシ
- 第五 所屬役員ヲシテ執行セシムル事件ハ一一其文書ニ檢印ヲ捺ス可シ

## 第二章

## 事務局分科

## 第一 第一科

伺達往復等ノ文案ヲ草シ受付記錄及ヒ雇人看護人以下進退ノ事ヲ掌ル

## 第二 第二科

患者ノ藥食攝生ニ注意シ若醫員ノ指圖或ハ規則ニ背違スル者アル時ハ懇切ニ説諭シ及ヒ看護人

## 第三 第三科

ノ勤惰ヲ督責シ其他一切藥局病室等醫事關係ノ事務ヲ掌ル

支給營繕藥價等一切出納ノ事ヲ掌ル

## 第三章 醫局

## 院長

第一 病室藥局一切ノ醫務ヲ擔任シ内外患者ノ診療及ヒ入院患者ノ藥食攝生等ノ事ヲ掌ル

第二 當直以下ノ勤惰ヲ監察シ其躑躅スヘキ者ハ事務長ト熟議連署シテ大警視ニ具狀シテ命ヲ乞フ可シ

## 副院長

## 職掌院長ニ亞ク院長闕席ノ時ハ代理スルコトヲ得

## 當直醫

第一 院長ノ指揮ヲ受ケ内外ノ病者ヲ診療及ヒ入院患者ノ藥食攝生等ノ事ヲ掌ル

第二 各署ヨリ入院ノ患者ハ其送狀ヲ檢シ病室規則ヲ示シ病症ヲ診察シ處方箋ヲ附シ而其廳署等

級氏名病室ノ番號入院ノ年月日等ヲ病名簿ニ記シ處方錄ニハ病因病名病症經過及ヒ年齢等詳記スヘシ

但外來ノ患者ハ其住所ノ街名番地等ヲ記スルコト本條ニ同シ

第三 入院患者ハ朝夕回診異狀アルモノハ乃チ院長ノ診斷ヲ乞フヘシ

第四 院長退出後入院ノ患者ハ之ヲ診察シ適宜ノ藥方ヲ處シ院長ノ出勤ヲ待テ診斷ヲ乞フヘシ

第五 入院患者急劇ノ症ヲ發スルトキハ臨時院長ノ來診ヲ請フヘシ

第六 患者危篤ノ者アラハ速ニ其親族或ハ證人請人へ報告スヘシ

第七 病質ニヨリ巡查ノ職ニ堪ヘサル者ハ仔細ニ診定シ成規ニ從ヒ診斷證書ヲ與フヘシ

第八 日々交番宿直シ明ケ番午前第十時ヨリ本廳へ出頭巡查志願人ノ體格検査ヲ爲スヘシ

副當直醫

職掌當直醫ニ亞ク

調剤醫

第一 院長及ヒ當直醫ヨリ附スル處方ヲ調剤スルヲ掌ル

但藥名分量用法等誤寫ノ疑惑アラハ直ニ審問シ毫釐ノ差違ナカラシヲ要ス

第二 處方錄ニハ病人ノ氏名藥名分量用法及ヒ年月日ヲ記シ而シテ調剤ノ都度其月日ノ下ニ押印スヘシ

第三 藥品器械ヲ點檢シ闕乏ノ品ハ院長ノ檢印ヲ得テ事務局第三科ニ附スヘシ

副調剤醫

職掌調剤醫ニ亞ク

第四章 入院規則

第一 入院ノ巡查ハ醫員ノ診斷ヲ得テ各病室ニ配置スヘシ

但等級氏名ヲ詳記シ廳署ノ送狀ハ逐次編綴スヘシ

九年八月督視監達第七十  
三號ヲ以入院規則ヲ改正ス  
九年七月督視監達第三十  
六號ヲ以テ第四章第一項  
但書ノ内臨ノ字ヲ削リ狀

ノ下ハサニ改ム  
同上第二項中事務局ヲ醫  
局ニ改ム  
九年七月督視監達第三十  
六號ヲ以テ第四項中事務  
局ヲ會計局ニ改ム

第二 外來ノ患者入院ヲ乞フ者ハ住所氏名職業年齢等ヲ詳記シ證人ヲ以テ事務局へ申出ツヘシ  
但證人ハ印形持參スヘシ

第三 證人ハ府下在籍ノ者タルヘシ若シ府下在籍ノ者ニ證人ナキトキハ寄留親戚朋友或ハ其住所ノ戸長押印ノ引請書ヲ以テ申出ツヘシ

第四 入院料ハ一週日毎ニ事務局へ納ムヘシ  
但巡查ハ成規ノ通タルヘシ

第五 看病人附添ハ勝手タルヘシ

第六 入院料ヲ三等ニ分ツ

一等ハ一日金七十五錢

一室ニ一人ヲ置キ看護人一人ヲ附ス

二等ハ一日金三十七錢五釐

一室ニ三人或ハ四人ヲ置キ一室毎ニ看護人一人ヲ附ス若附添人アル者ハ其賄料ヲ納メシム別ニ自分看護人ヲ雇フ者賄料ノ外相當ノ給料ヲ納メシム

三等ハ一日金三十一錢二釐五毛

一室ニ六人ヲ入レ二室或ハ三室毎ニ看病人一人ヲ附ス

第五章 病室規則

第一 病室ハ區分シテ五分トス

第一 内科病室

第二 外科病室

第三 梅毒病室

第四 眼科病室

第五 婦人病室

## 第六 婦人梅毒病室

但第一ヨリ第四マテ男子ヲ入ル

第二 各部數病室ヲ備フ各病者ヲ一室ニ雜居セシメサルヲ要ス

第三 看護人ハ男子病室ニハ男子ヲ付シ婦人病室ニハ婦人ヲ附スヘシ

第四 藥用攝生等一切醫員ノ指圖ニ背違スヘカラズ

第五 三回ノ食事其時刻ニ後ルヘカラズ

但大患ノ者ハ此限ニアラス

第六 醫員ノ許可ヲ經サル食物ハ室内ニ入ルヘカラズ

第七 金銀其他大切ノ品所持スルヲ許サス

但無據持參スル者ハ其物品員數ヲ記載シテ事務局ニ差出シ事務局ノ預リ證書ヲ受取置キ退院ノ節物品ト引換ヘシ

第八 金銀貸借ヲ爲スヘカラズ

第九 諸勝負ニ類似ノ儀一切致スヘカラズ

第十 諸商人立入ルヲ許サス

第十一 嘘嘩口論及ヒ放歌謡吟スヘカラズ

第十二 外出ハ醫員ノ許可ヲ得サレハ許サス

但醫員ノ許可ヲ得外出スル者ハ事務局ヨリ鑑札ヲ受ケ門番ヘ預ケ置歸院ノ節返付スヘシ

第十三 外出スル者鎖門定限午後第十時前ニ歸院スヘシ外泊ヲ許サス

第十四 藥用ノ外飲酒スルヲ許サス

第十五 患者規則ヲ犯ス者ハ其事狀ニヨリ巡查ハ該廳ノ少警視ニ照會シ相當ノ處置ヲナシ外來患者ハ直ニ退院ヲ命スルコト有ルヘシ

九年七月警視廳達第三十  
六號ヲ以テ第十九項ヘ但書  
ヲ追加ス

九年七月警視廳達第三十  
六號ヲ以テ第十二項但書  
事務局ヲ看護長ニ改ム

九年七月警視廳達第三十  
六號ヲ以テ第十五項ヲ改  
正ス

警視廳達<sup>八年十月二十六日</sup>  
警視假本病院職務心得第一章ノ第三ヘ但書左ノ通追加候條此旨相達候事  
藥品并患者支給ノ物品ハ此限ニ非ス

警視廳達<sup>八年十一月二十三日</sup>

今般警視假本病院建築落成ニ付夫々醫員モ相備ヘ外國人教師ヲモ雇入ノ上警部補并巡查重患難症ノ者  
ハ同院ニ於テ厚ク治療相施候條此旨相達候事  
一警部補并巡查疾病ニ罹リ候節本病院ニ入舍スルト否トニ拘ラス總テ同院ノ治療ヲ受ル者ハ一旦該支  
病院ニ申出醫員ノ差圖ヲ可受事

一本病院ヘ入院ノ患者角袖著用并門外試歩差許候儀院長ノ差圖ニ可任事

但各支病院ニ於テハ角袖差許候儀不相成候事

一右患者角袖着用又ハ試歩差許候上ハ遊步規則并時間定限堅ク相守候様本病院事務掛ニ於テ注意イタ  
シ若シ違背ノ者有之節ハ其旨所管ノ少警視ニ知會可致事

警視廳達<sup>八年十一月二十四日</sup>  
本年十月文第百二十四號同第百三十八號ヲ以テ病院規則等相定候ニ付從前ノ規則指令等抵觸スル者ハ  
廢止ト可相心得此旨相達候事

警視廳達<sup>八年十二月十五日</sup>

各區病院支病院ノ名稱相應シ從前ノ通警視第何病院ト可相稱此旨相達候事

警視各區病院支病院ノ  
名稱ヲ農シ警視第何病  
院ト改稱ス

ニロド從前ノ規則指  
令ニ抵觸スル者ヲ廢止ス

八十七號ヲ以テ名稱ヲ改  
十三年八月警視本署達第

警視廳達 八十九年十一月十七日  
改第十四十二月二十三日  
本病院ノ名稱相廢第五病院へ合併候條此旨相達候事

但病院事務局ノ儀ハ當分如從前同院中ニ設置候事

警視本病院ヲ廢シ第五  
病院へ合併ス  
十二年五月警視廳達第七十  
七十一號ヲ以テ復病院ヲ  
置ク

警視病院職務心得ヲ取

正ス  
九年八月警視廳達第七十  
六號ヲ以テ改正ス

九年二月警視廳達第五十  
一號ヲ以テ事務局ヲ本廳  
中ニ移ス

警視廳達 九十年一月十七日  
改第十四十二月二十三日  
病院職務心得別紙ノ通改正候條爲心得此旨相達候事

(別紙)

## ○第一章 事務局

### 第一條 事務長

第一 大警視ノ命ニ從ヒ各病院一切ノ事務ヲ管理スルヲ掌ル

第二 通常ノ事務ハ成規ニ隨テ之ヲ處分シ臨時ノ事件及ヒ所屬役員ノ進退賞罰ハ他方出張或ハ養病旅行願等總テ本廳ニ具狀シテ命ヲ乞フヘシ  
但薬品并患者支給ノ物品ハ此限ニアラス

第三 小破營繕及ヒ書籍器械ノ購求其他費用ニ關スル一切ノ事項ハ稟準ヲ經テ之ヲ行フヘシ

第四 院省使府縣等他向ヘノ文移ハ總テ本廳ヲ經由スヘシ

第五 所屬役員ヲシテ執行セシムル事件ハ一々其文書ニ檢印ヲ捺スヘシ

### 第二條 事務局分課

書記掛

文書ノ行移并諸備人進退ノコトヲ掌ル

用度掛

用度營繕藥料等一切出納ノ事ヲ掌ル

## ○第二章 醫局

### 第三條 病院取締 但各病院ニ一人ヲ置キ月給四十圓以上ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

第一 事務局長ニ受ケ各病院ニ分派シ該院一切ノ醫務ヲ擔任シ内外患者ノ診療及ヒ變死傷等檢視上診斷ノ事ヲ掌ル

但該病院構内ニ常住スヘシ

第二 同診并調濟掛以下ノ勤惰ヲ察シ其黜陟スヘキハ事務局ヘ申出ヘシ

第三 入院患者ハ朝夕診察シ異狀アル者ハ臨時教師ノ來診ヲ乞フヨトアルヘシ

第四 入院ノ警部補巡查等運動ノ爲メ外出ヲ許ス者其時間及角袖筒袖ノ區別毎次事務局ヘ申出ヘシ

第五 病症ニヨリ巡查ノ職ニ堪ヘサル者ハ成規ニ從ヒ診斷書ヲ與フヘシ

第六 患者危篤ノ者ハ速ニ其親族或ハ請人ヘ報告スヘシ

第七 教師診療ノ患者後日ノ考案ニ備フヘキモノハ其病症ノ經過及處方等精細筆記シテ治驗錄ニ編ムヘシ

第四條 取締ノ外別ニ月給四十圓以上ノ者ヲ置クトキハ事務局ノ指圖ニ從ヒ取締ト協議シ專ラ治療上ノ事ヲ擔任シ且本廳巡查志願人ノ體格検査ヲ爲スヘシ

第五條 巡診掛 但月給三十圓以下十五圓  
以上ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

第一 取締等ノ指揮ヲ受ケ内外ノ病者診察ノ事ヲ掌ル

但病院構内ニ居住スヘシ

第二 入院患者ノ藥食攝生ヲ説諭シ及ヒ看護人ノ勤惰ヲ督シ及ヒ藥局病室等ニ注意スヘシ

第三 各署ヨリ入院ノ患者ハ其送状ヲ檢シ病室規則ヲ示シ而シテ方面署等級氏名病室ノ番號入院ノ年月等ヲ病名簿ニ記シ處方錄ニハ病因病症經過及ヒ年齡等ヲ詳記スヘシ

但外來ノ患者ハ其大小區村町番地等ヲ記スルコト本條ニ同シ

第四 取締等不在中入院ノ患者アレハ之ヲ診察シ適宣ノ藥方ヲ處シ其歸院ヲ待チ更ニ診斷ヲ請フ  
ヘシ

第六條 調藥掛 (但月給二十圓以下六圓以上ノ者ヲ以テ之ニ充ツ)

第一 醫員ヨリ付スル處方ヲ調劑スルヲ掌ル

但藥名分量用法等誤寫ノ疑惑アラハ直ニ審問シ毫釐ノ差違ナキヲ要ス

第二 處方錄ニハ病人ノ氏名、藥名、分量、用法及ヒ年月日ヲ記シ而テ調劑ノ都度其月日ノ下ニ押印スヘシ

第三 藥品器械ヲ點檢シ欠乏ノ品ハ醫員ノ檢印ヲ得テ事務局用度掛ヘ付スヘシ

警視廳達 (九年一月十八日)

今般病院職務心得改正ノ儀第十號ヲ以テ相達候通ニ付テハ從前取設有之院長當直醫等ノ名稱ハ總テ廢止候儀ト可相心得此旨相達候事

警視廳達 (九年一月十九日)

本月十七日第十號ヲ以テ相達候病院職務心得第三條ノ第五病症ニヨリ巡查ノ職ニ堪ヘサルモノ云云必ス教師ノ診斷ヲ受ケ之ヲ與ヘ其由ヲ該署長ヘ通知候儀ト可心得此旨相達候事

警視廳達 (九年一月二十二日)

各病院ニ於テ警部補并ニ巡查診察ノ上爲差病氣ニモ無之者ヘ引籠證書ヲ付與候テハ決シテ不相濟儀ニ付若押テ其證ヲ乞候者有之節ハ其事由ヲ詳記シ第一局ヘ可差出此旨相達候事

警視廳達 (九年一月二十二日)

警部補巡查病氣ニ罹リ入院ノ節ハ其當日ヨリ九十日間施藥賜リ候條此旨更ニ相達候事

警視廳達 (九年一月二十二日)

警部補巡查病氣ニ罹リ入院致シ治療ヲ施スト雖モ到底職務ニ堪ヘサル見込ノ者ハ署長ヘ通知シ其由ヲ

警視廳達 (九年一月二十二日)

明治八年十月第百三十八號ヲ以テ警部補巡查本病院ヘ入舍スルト否トニ拘ラス總テ該院ノ差圖云云ト相達置候得共爾後署長ノ照會ヲ以テ臨時第五病院ノ診斷ヲ可請儀モ有之候條此旨相達候事

第一局ヘ可申出此旨相達候事

警視廳達 (九年二月二十二日)

警部補巡查病氣ニ罹リ入院ノ節ハ其當日ヨリ九十日間施藥賜リ候條此旨更ニ相達候事

但職務上傷痕ヲ蒙リ候者ハ此限ニ非ス

警視廳達 (九年二月二十二日)

明治八年十月第百三十八號ヲ以テ警部補巡查本病院ヘ入舍スルト否トニ拘ラス總テ該院ノ差圖云云ト相達置候得共爾後署長ノ照會ヲ以テ臨時第五病院ノ診斷ヲ可請儀モ有之候條此旨相達候事

病院并醫學校事務局ヲ本廳中ニ移シ第七局ト改稱候條此旨相達候事

警視廳達 (九年二月二十二日)

無籍ノ懲役人死亡致シ候節ハ東京醫學校ヘ照會ノ上同所ニ於テ不用ノ趣申來候時ハ右死體當廳第五病院ヘ下渡シ候條其旨同院ヘ通達可致此旨相達候事

警視廳達 (九年二月二十二日)

無籍ノ懲役人死亡致シ候節ハ東京醫學校ヘ照會ノ上同所ニ於テ不用ノ趣申來候時ハ右死體當廳第五病院ヘ下渡シ候條其旨同院ヘ通達可致此旨相達候事

警視廳達 (九年二月二十二日)

警部補巡查疾病ニ罹リ往々職務ニ難堪ト診斷候者ハ治療日數ノ長短ニ不拘其旨該署長ヘ通知可致其上

九年八月警視廳達第七十

六號ヲ參看スヘシ

處分延引ノ節ハ第一局へ可申出此旨相達候事  
但從前ノ達指令等本文ト抵觸スル者ハ總テ取消ノ儀ト可相心得事

警視廳達(九年七月三十六號)

警視廳規則中サ改正

九年八月警視廳達第七十

三號ニ依テ消滅ス

明治八年十月十日第百二十四號ヲ以相達置候病院規則中左ノ通改正追加候條此旨相達候事  
第四章 入院規則

## 第一

但等級氏名ヲ詳記シ署ノ送状ヲ逐次編綴ス可シ

第二 外來ノ患者入院ヲ請フ時ハ住所氏名職業年齢等ヲ詳記シ證人ヲ以テ醫局へ申出ツ可シ

第四 入院料ハ一週日毎ニ會計局へ納ム可シ

## 第五章 病室規則

## 第七

但無據持參スル者ハ其物品員數ヲ記載シテ看護長ニ差出シ看護長ノ預り證書ヲ受取置キ退院ノ  
節物品引換ヘシ

## 第十

但鑑札ヲ持參スル者ハ此限ニアラス

## 第十二

但醫員ノ許可ヲ得外出スル者ハ看護長ヨリ鑑札ヲ受ケ門番へ預ケ置歸院ノ節返付スヘシ

第十五 規則ヲ犯ス患者ハ其事狀ニヨリ巡查ハ該署長ニ照會シ相當ノ處置ヲナシ外來者ハ直ニ退  
院ヲ命スル「アルヘシ

警視廳達(九年八月二日)

警視廳整部補巡立入院

警視廳達(九年八月二日)

中轉免等ノ節通知方

警視廳整部補巡立入院

十四年三月警視廳達第四

十一號ニ依テ消滅ス

正ス

警視病院入院規則ヲ改

十四年三月警視廳達第四

十一號ニ依テ消滅ス

## 警部補巡查病氣引籠又ハ入院中轉免候者有之節ハ其都度該病院へ通知候様可致此旨相達候事

警視廳達(九年八月十三號)

## 入院規則

明治八年十月十日第百二十四號達中入院規則左之通改正候條此旨相達候事

## 第一條 入院ノ節ハ諸定則ヲ守リ醫員ノ指揮ニ違背スヘカラス

第二條 病者入院ヲ乞フトキハ午前ニ參院スヘシ

但シ急病或ハ不得已事故アル者ハ此限ニ在ラス

第三條 外來ノ患者入院ヲ請フ者ハ住所姓名職業年齡等ヲ詳記シ保證人押印ノ引受書ヲ醫局ニ差出

スヘシ

但シ保證人ハ府下在籍ノ者タルヘシ若シ其ノ在籍ノ者無キ時ハ寄留親戚朋友或ハ其住所ノ戸長

タルヘシ

第四條 金銀其他大切ノ物品所持スルヲ許サス

但シ據ナク持參スル者ハ其物品員數ヲ記載シテ看護長ニ差出シ看護長ノ預り證書ヲ受取置キ退

院ノ節物品ト引換ユヘシ

第五條 火ノ元大切ニ注意スヘシ

第六條 藥用飲食攝生等一切醫員ノ指圖ヲ受ク可シ

第七條 三回ノ食事其時刻ニ後ル可カラス

但シ重患ノ者ハ此例ニアラス

第八條 自己ノ病床ヲ離レ妄ニ他室ニ往來ス可ラス

第九條 醫員ノ許無ナクシテ外出運動スルヲ許サス

但シ外出運動ハ午後第一時ヨリ第三時迄三町四方以内ヲ限りトス事情ニヨリ臨時時限ノ遲速ヲ

十二年七月警視廳達第二百

四十六號ヲ以テ第九條但

書ヘ追加ス

許スコトアリト雖外泊ヲ許サス且市店ニ立寄リ飲食等堅ク之ヲ禁ス

第十條 外出運動毎ニ看護長ヨリ鑑札ヲ受ケ門監ヘ預ケ置キ歸院ノ節看護長ヘ返付スヘシ

第十一條 看護ノ婦女ニ對シ戯言ヲナスヘカラス

第十二條 入院中互ニ金銀貸借ヲ禁ス

第十三條 諸勝負ハ勿論假令類似ノ事件ト雖モ堅ク之ヲ禁ス

第十四條 喧嘩口論ハ勿論放歌吟詩音讀等總テ高聲ヲ禁ス

但シ各病室診察中ハ殊ニ寧靜ヲ要ス

第十五條 入院患者外來ノ人ト應接ノ時限ハ午前第九時ヨリ午後第四時迄タルヘシ其他一切外人ト

應接ヲ許サス

但シ公事ノ外不得已事情アルトキハ臨時醫局ヘ申出指揮ヲ受クヘシ

第十六條 諸工商ノ者室内ニ入ルヲ許サス

但シ醫局ノ鑑札ヲ持參スル者歟又ハ公用ノ者ハ此限ニアラス

第十七條 重症ニ罹ル者親戚朋友ノ情願ニ由テ看護ヲ要スルトキハ臨時差許スヘシ

但シ費用ハ自費タルヘシ

第十八條 巡查入院中食料一日金十二錢五釐ノ割ヲ以テ該署會計係ヨリ病院會計係ヘ毎月二十日限り仕拂フ可シ

第十九條 外來患者ノ入院料ヲ二等ニ分ツコト左ノ如シ

但シ入院料ハ一週間毎ニ會計局ニ納ムヘシ

第一等ハ一日七十五錢ナリ

但シ一室ニ一人ヲ置キ看護人一人ヲ附ス

第二等ハ一日金三十七錢五釐ナリ

但シ一室ニ三人或ハ四人ヲ置キ二室毎ニ看護人一人ヲ附ス

九年十二月警視廳達第五  
五十四號ヲ以テ改正ス  
下ヲ改正増補ス

一第三等ハ一日金三十一錢二釐五毛ナリ  
但シ一室ニ五六人ヲ置キ二室或ハ三室毎ニ看護人一人ヲ附ス

右規則ヲ犯ス者ハ其事情ニヨリ巡查ハ該署長ニ照會シ相當ノ處分ヲ乞ヒ外來者ハ直ニ退院ヲ命スル

コトアルヘシ

警視廳達九年八月十六號

正ス  
警視廳職務心得ヲ改  
二十四號ヲ以テ改正ス

第一條 院長 各院一員ヲ置ク

第一 該院一切ノ醫務ヲ擔任シ内外患者ノ診療ヲ掌ル

第二 巡診掛以下ノ勤惰ヲ察シ其黜陟ス可キハ取締ト協議シ大警視ニ具申シテ命ヲ請フ可シ

第三 重病又ハ難症ノ患者ハ臨時教師ノ來診ヲ乞フコトアル可シ

第二條 取締 各院一員ヲ置ク(月給四十圓以上ノ者ヲ以テ之ニ充ツ)

第一 各病院ニ分派シ院長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理シ内外患者ノ診療及ヒ變死傷等檢視上診斷ノ事ヲ掌ル

但該病院構内ニ常住スヘシ

第二 院長ヲ置カサル病院ニ於テハ其事務ヲ總理スルヲ得

第三 巡診并調劑掛以下ノ勤惰正否ヲ察シ異狀アレハ院長ニ告知シ又ハ直ニ本廳ニ上申スルコトアル可シ

第四 入院ノ警部補巡查等運動ノ爲メ外出ヲ許ス者其時間及ヒ角袖筒袖ノ區別第一局員巡視ヘ申出ヘシ

第五 病症ニヨリ警部補巡查ノ職ニ堪ヘサル見込ノ者ハ院長又ハ教師ノ診斷ヲ受ケ之ニ證書ヲ與ヘ

其由ヲ該署長へ通知ス可シ

但成規ノ期日ヲ経過スト雖モ重症ニシテ死ニ瀕スル者ハ此限ニアラス

第六 患者危篤ノ者ハ速ニ其親族或ハ受人へ報告スヘシ

第七 教師診療ノ患者後日ノ考按ニ備フヘキモノハ其病症ノ経過及ヒ處方等精細筆記シテ治驗錄ニ編ムヘシ

九年九月警視廳達第八十項  
三號ヲ以テ第二條第七項  
中へ追加ス  
九年九月警視廳達第八十項  
三號ヲ以テ第八項ヲ追加ス

第三條 取締ノ外別ニ月給四十圓以上ノ者ヲ置クトキハ院長ノ指圖ニ從ヒ取締ト協議シ專ラ治療上ノ事ヲ擔任シ且本廳巡查志願人ノ體格検査ヲナスヘシ

第四條 巡診掛上ノ者ヲ以テ之レニ充ツ

第一 院長及ヒ取締等ノ指揮ヲ受ケ内外ノ病者診察ノ事ヲ掌ル

但病院構内ニ居住スヘシ

第一 入院患者ノ藥食攝生ヲ説諭シ及ヒ看護人ノ勤惰ヲ督シ及ヒ藥局、病室等ニ注意スヘシ

第三 各署ヨリ入院ノ患者ハ其送狀ヲ檢シ病室規則ヲ示シ而シテ方面、署、等級、氏名、病室ノ番號入院ノ年月等ヲ病名簿ニ記シ處方錄ニハ病因、病名、病症、経過及ヒ年齢等ヲ詳記スヘシ

但外來ノ患者ハ其大小區村町番地等ヲ記スルコト本條ニ同シ

第四 院長等不在中入院ノ患者アレハ之ヲ診察シ適宜ノ藥方ヲ處シ其來院ヲ待テ更ニ診斷ヲ請フヘシ

第五條 調藥掛(月給二十圓以下六圓以上)  
ノ者ヲ以テ之レニ充ツ

第一 醫員ヨリ付スル處方ヲ調剤スルヲ掌ル

但藥名分量用法等誤寫ノ疑惑アラハ直ニ審問シ毫釐ノ差違ナキヲ要ス

第二 處方錄ニハ病人ノ氏名、藥名、分量、用法及ヒ年月日ヲ記シ而シテ調剤ノ都度其月日ノ下ニ押印スヘシ

第三 藥品器械ヲ點檢シ闕乏ノ品ハ醫員ノ檢印ヲ得テ用度掛ヘ付スヘシ

警視廳達(九月八日)各病院  
十二年十二月警視廳達第百二十四號ニ依テ消滅ス

本年八月達第七十六號病院職務心得第二條中左ノ通追加候條此旨相達候事

第二條

第七 治驗錄ニ編ノ下(マシ)二字ヲ加フ

第八 公務ノ都合ニ依リ變死傷等ノ檢視事ノ輕易ナル者ハ巡診掛ヲシテ代ラシムルコトアル可シ  
(別紙)

規第九十一號甲

各方面掛少警視

該方面病院近火ノ節ハ速ニ出張シ消防ハ勿論患者立退并救護方厚ク注意指揮可致此旨相達候事

規第九十一號乙

各方面病院視察ノ儀左ノ通可相心得此旨相達候事

第一條 少警視ハ各方面病院ヲ巡回シ體裁及ヒ施爲ノ利弊醫員以下ノ勤惰其患者若クハ外來人ヲ接遇スルノ懇切ナルヤ否等病院ニ關スル一切ノ事ヲ視察シ異状異聞アレハ之ヲ大警視ニ具狀スヘシ

但該方面病院ヲ以テ各自ノ擔當トスヘシ

第二條 少警視ハ病院ヲ視察スルニ止リ其事務執行ニ干預シ或ハ其當否ヲ主任者ニ對シ討論スルヲ得ス

第三條 入院ノ警部補巡查及ヒ外來患者ノ規則ヲ守ルヤ否ヲ視察シ若シ規則ニ違背スル者アルヲ見認

ルトキハ警部補巡查ハ直ニ詰責シ其他ハ之ヲ取締ニ知告スヘシ

第四條 院中ノ掃除及ヒ患者ノ飲食物ニ注意シ不潔若クハ粗惡等ノ事アルトキハ其主任者ヲ訊問シ或ハ院長等ト協議スヘシ

第五條 治療上ノ事ト雖モ患者ノ苦情アルヲ聞知スルトキハ主任者若クハ院長等ノ意見ヲ問フコトアルヘシ

警視廳達九年十二月六日

警視病院入院規則第十  
九條中ヲ改正増補ス

十四年三月警視廳達第四  
十一號ニ依テ消滅ス

本年八月達第七十三號入院規則中第十九條外來患者入院料ノ儀ニ等以下左ノ通改正增加候條此旨相達

候事  
第二等一日金五十錢

第三等一日金三十七錢五釐

第四等一日金三十一錢二釐五毛

警視本署達五年二月十五日

各病院取締ヲ除ノ外廻診掛手傳生ニ至ル迄毎年一回學術試験致候條爲心得此旨相達候事

但試験日限等ハ追テ可相達事

警視本署達五年四月三十一日

今般第五病院内ヘ製藥所取設候條其署藥局ノ用品ハ悉皆同所ヨリ可請取此旨相達候事

但本文代價ノ儀ハ月末同所ヘ送付可致候事

警視本署達十年二月二十四日

正ス

警視病院職務心得ヲ改  
所・設置ス

十四年三月警視廳達第四  
十一號ヲ以テ警視病院ヲ

廢ス

警視第五病院内ヘ製藥  
所・設置ス

十二年六月四日警視本署  
造薬外ヲ以テ本病院所管  
トス

十三年一月警視本署達號  
外ヲ以テ職務心得ヲ改正  
ス

十二年六月警視本署達號  
號ヲ以テ第一條ヲ廢除ス

## 第一條

### 總長

第一 警視各病院及ヒ監獄ノ醫務ヲ總理シ院長以下醫員ノ勤怠ト治術ノ巧拙トヲ監査シ各其職ヲ盡  
サシムヘシ

第二 時々各病院ヲ巡廻シ重症ノ患者アラハ之ヲ診察シ其處法錄ヲ檢シ適否ヲ審按スヘシ

第三 取締以下ノ進退ハ院長ノ申出テニヨリ意見ヲ大警視ニ具申シ黜陟ヲ乞フヘシ

第四 每月一回或ハ二回各院長ヲ集合會議シ醫務ノ區々異同ナキヲ要スヘシ

## 第二條

### 院長 各院一員ヲ置ク

第一 該病院一切ノ醫務ヲ管掌シ取締以下各醫員ノ勤怠及ヒ治術ノ巧拙ヲ監視シ其黜陟スベキハ總  
長ニ稟議スヘシ

第二 凡ソ參院ノ患者ハ懇切ニ治療ヲナシ入院者ノ診斷ハ勿論取締以下ヲシテ病室内ヲ時々巡回シ  
不攝生ナキ様注意セシムヘシ

第三 重病又ハ難症ノ患者アル時ハ總長又ハ教師ノ來診ヲ乞フヘシ

第四 外國人ニ關係シ他日裁判ヲ求ムヘキ變死人及ヒ負傷者等アルトキハ取締ヲシテ直ニ教師ノ來  
診ヲ乞ヒ其事由ヲ大警視ヘ具申スヘシ

第五 警部補巡查病氣ニ付解職ヲ願フ者診斷證明シ其證書ヲ該署長ヘ送付スヘシ

但診斷シ難キ病症ニ至テハ總長又ハ教師ノ診斷ヲ乞フコトアルヘシ且此診斷ハ進退ニ關スルモノニ付本人ニ示サス直チニ該署長ニ其事由ヲ通報スヘシ

第六 檢視上ニ係ル診斷バ取締ノ專務タリト雖モ其決シ難キモノ及ヒ重要タル事件ハ臨時出張スル

第七 各醫員進退ニ關係スル事件ヲ除クノ外諸願伺居等ヲ出ストキハ其可否ヲ考按シ異存ナキハ之レニ検印ヲナシ第五課ヲ經由シテ大警視ヘ呈達スヘシ  
但異存アルモノハ其趣ヲ副啓スヘシ

第八 凡ソ管内傳染病發起ノ兆候アラハ速ニ大警視ヘ具申シ且總長及ヒ各院長ト協議ノ上精々豫防ニ注意スヘシ

### 第三條 副院長

副院長

院長ヲ補助シ院長アラサルトキハ其事務ヲ代理ス

### 第四條 取締 各院一員ヲ置ク

第一 院長ノ命ヲ受ケ内外ノ庶務ヲ管掌シ醫員以下ノ勤怠ヲ視察シ異狀アラハ院長ニ具申スヘシ  
第二 非常急遽ニ應スル爲メ毎ニ院内官舍ニ居住スヘシ  
第三 檢視上ニ關スル一切ノ診斷ヲ掌ル  
第四 外國人ニ關涉シ他日裁判ヲ求ムヘキ變死人及ヒ負傷者等ハ一應檢診ノ上直チニ教師ノ來診ヲ乞ヒ其事由ヲ院長ニ具申スヘシ  
第五 土曜日毎ニ各貸坐敷地ヘ出張シ黴毒ノ検査ヲナシ及ヒ各病院月々輪番ヲ以テ出張醫員ノ人數繰等ヲナスヘシ

但當直醫及ヒ副當直醫ヲシテ黴毒検査掛ヲ兼シメントストキハ其人名ヲ院長ヘ申出ヘシ

第六 常ニ院長ニ代リ專ラ警部并巡查ノ診斷ヲナシ入院又ハ引籠リ攝養スヘキ病患ノ者ハ證書ヲ附與シテ該署ニ報スヘシ  
第七 警部補以下外出運動書ハ兼テ第一課ヨリ領置シ角袖筒袖ノ區別ヲナシ之ヲ附與シ然ル後第一

### 第五條

課ヘ通知スヘシ  
第八 入院患者ニ與フル三次ノ食ヲ點検シ病患ノ健全ニ注意シ賄人ヨリ出ス處ノ日表帳ニ検印スヘシ

### 第九

各醫員ノ進退ニ關スル事件ヲ除クノ外諸願伺居等ニ検印ヲ押シ之ヲ院長ニ出スヘシ

### 第六條

當直醫 定員ナシ

第一 院長及ヒ取締ノ指揮ヲ受ケ患者ノ診察ヲナシ之ヲ懇切ニ取扱フヘシ  
第二 非常急遽ニ應スル爲メ毎ニ院内官舍ニ居住シ輪番ヲ以テ宿直ヲナスヘシ  
第三 各署ヨリ變死人并負傷者アルノ通報アラハ取締ノ指揮ヲ受ケ直ニ該處ニ出張シ之ヲ診按スヘシ若シ診決シ難キモノハ速ニ取締ノ指揮ニ眞告スヘシ  
第四 出火ノ節ハ直ニ其場處ニ出張シ警視警部ノ指揮ヲ受クヘシ

### 第七條

副當直醫 定員ナシ

第一 職務當直醫ニ同シ  
第二 看護掛ヲ置カナル病院ニアリテハ其事務ヲ兼任セシムルコトアルヘシ  
第三 一名又ハ二名ヲ以該院貯藏ノ器械ヲ主管シ手術アルトキハ之レカ準備ヲナシ若シ破損等アルトキハ修理ノ手順ヲナスヘシ

看護掛

第一 院内官舍ニ居住シ輪番ヲ以テ宿直ヲナスヘシ  
第二 時時病室ヲ巡視シ患者不攝生ナキ様精々看護ニ注意スヘシ  
第三 看護婦ノ勤怠ヲ監督スヘシ



警視第三病院へ辨部補  
以下本署者サ入院セシ  
警視本署達五一年七月三十一日  
第百三十二號第三方面各分署

第三病院ノ儀ハ是迄病室狹隘ニシテ娼妓而已入院爲致置候處今般右病室新築落成ニ付自今第三方面警部補以下重患ノ者ハ該院ヘ入院治療爲致候條此旨相達候事

シ十四年三月號祝慶達第  
四十一號ニ依テ同局ナ廢  
ス

警視本署達十一月二十一日  
番外第五第六病院

十四年三月警視廳第十一號サ以テ警視病院ナ  
廢ス

警視本署達十一午十月二十二日  
番外製藥所各病院  
藥品出納ノ儀自今別紙雖形(略)二

警視本署達十一埠外各病院十一月十三日

是迄各病院患者表差出方一定不致取調上差支候條自今前月分翌月五日限り本署第五課へ可差出此旨相達候事

警視病院調査掛罰則

今般警視病院調査掛罰則左之通制定候條若シ違犯ノ者アラハ其事實ヲ詳記シ本署第五課ヲ經由シ處分方可伺出此旨相達候事

第一 調剤上若シ疑惑ノ廉アリテ之ヲ調剤監ニ質サス臆斷ヲ以テ調剤スル者ハ月俸一十分ノ一ヲ科ス

卷之三

卷之三

第一 關利ニシテ樂品問獲益ノ寄貯ニ蒙リ其獎勵ヲノ事多量、天之恩人三十

第二 認齊ナシ 薬品調査監、審査ニ據リ其認齊ナル事發覺シ未多他人ニ有  
ノ一チ科ス

**第四** 前條ヲ犯ス二回ニ及フ者ハ月俸十分ノ二ヲ科シ三回以上ノ者ハ其犯狀ニ依リ月俸十分ノ三ヨリ少カラサル罰金ヲ科ス或ハ過失ノ情ニ據リ免職スルコトアルヘシ

第五 誤劑ヲ與ヘ其患害輕微ナル者ハ月俸二分ノ一ヲ科シ或ハ過失ノ情狀ニ依リ免職ス  
但本律ニ觸ル者ハ此限ニ非ス

内務省上申 十二年四月七日

當省警視局病院ノ儀ハ舊警視廳以來巡查施療ノ爲メ設置候處追々人民ヨリ治療方倚賴ノ向有之ニ付右ハ相當ノ藥價ヲ收入シ其請願ニ應シ候様致シ來候間此段及上申置候也

警視本署達第十二年五月二十五日

今般淺草猿屋町十七番地へ本病院ヲ設置シ左ノ通職制假定候條爲心得此旨相達候事  
本病院假職制

院長  
第一 警察醫務及ヒ各病院百般ノ醫事ヲ統理シ各院長以下ノ勤怠能否ヲ監視ス

第二 総理ノ監察上ニ係ル重大ノ検診ハ之ヲ主宰スト雖モ其現場ニ出張シ及ヒ裁判上ニ關シ答辨等  
サナスハ專ラ副院長ニ任シ其決シ難キモノハ稟議ヲ待テ之ヲ裁決指示スヘシ

第三 招募者以一巡査ニ關スル病院ニ附リ名病院ニテ治シ薬キモノヲ送リ來リ時ハ反覆之ヲ診治シ該署長ヘ通知ノ手續ナナズヘシ

第五 時々各病院ヲ巡回シ重症ノ患者アラハ之ヲ診察シ且ツ處法錄ヲ閲シ適否ヲ審査スヘシ  
第六 各病院長以下ノ進退ハ大警視ニ意見ヲ具申シ黜陟ヲ乞フヘシ  
第七 各病院ヨリ諸願伺届等ヲ出ストキハ其可否ヲ考案シ意見ナキハ之ニ検印シ第一課衛生掛ヲ經由シテ大警視ヘ進呈スヘシ

第八 每月一回或ハ二回各病院長ヲ集合會議シ醫務ノ區區異同ナキヲ要スヘシ

## 副院長

第一 院長ヲ補助シ警察醫務ニ從事シ各員進退ニ關スル上申ヲ除クノ外先規定例アル者ハ總テ院長ノ代理スルヲ得

第二 重大ノ檢診及ヒ外國人ニ關シ他日裁判ヲ求ムヘキ變死傷者アリテ各病院ヨリ通報アラハ速カニ該地ニ出張シ檢診ヲナスヘシ

第三 每日一時間若シクハ二時間公務ノ餘暇ヲ以テ裁判醫學ヲ講スヘシ  
幹事

第一 院内ノ庶務ヲ辦理シ病室ノ取締ヲナシ及ヒ金銀器械藥品ノ出納ヲ審査スルコトヲ掌ル

第二 副院長已テ得サル事故アリテ變死傷者アル地ヘ出張ナシ難キ時ハ代理出張スルコトヲ得然レトモ此場合ニ於テハ必ス該方面病院長ノ立會ヲ乞ヒ審議ノ上兩名ヲ以テ執行スヘシ  
正當直醫

第一 院長及ヒ幹事ノ指揮ヲ受ケ警察醫務ニ從事ス

第二 該院貯藏ノ器械ヲ主管シ若シ鏽蝕等アラハ之ヲ磨補シ且ツ手術アルトキハ之ヲ準備ヲナス  
ヘシ

第三 輪番ヲ以テ一名或ハ二名宿直ヲナスヘシ  
調藥監

第一 總テ院長ノ指揮ヲ受ケ調劑上ノ事ヲ主管シ調藥掛ノ勤怠ヲ監視シ調劑ノ誤謬ナキニ注意ス

第二 該院貯藏ノ器械ヲ主管シ若シ鏽蝕等アラハ之ヲ磨補シ且ツ手術アルトキハ之ヲ準備ヲナス  
ヘシ

第三 輪番ヲ以テ一名或ハ二名宿直ヲナスヘシ  
調藥副監

第一 調藥監缺席及ヒ不在ノ節ハ其事務ヲ代理スヘシ  
調藥掛

第二 藥劑欠乏ナキ様時時調査シ欠乏品アラハ其調書ヲ院長ニ出シ購求ヲ乞フヘシ  
第三 醫員ヨリ送付スル處方箋ニ檢印シ調藥掛ニ附與シテ調劑セシムヘシ  
第四 日々藥品ノ出納ヲ調査シ之ヲ帳簿ニ登錄シ月表ヲ製スヘシ

## 調藥副監

第一 調藥監缺席及ヒ不在ノ節ハ其事務ヲ代理スヘシ  
調藥掛

第一 院長及ヒ調藥監ノ指揮ヲ受ケテ調劑シ其都度處方箋月日ノ下ニ押印スヘシ

第二 附與セラル、所ノ處方箋ヲ審接シ若シ疑團アラハ調藥監ニ質問シ些ノ事ト雖モ臆斷ヲ以テ  
調劑スヘカラス

第三 輪番ヲ以テ一名或ハ二名宿直ヲナスヘシ  
但調藥監ノ儀ハ自今宿直ニ不及候事

警視本署達十二年五月三十日  
警視外各病院  
總成病院製藥所ナ本病院  
院ノ所儲トス

十三年一月三十一日警視  
本署達無既ナ以テ本病院  
ナ處シ製藥所ナ第二課督理トス

十四年三月警視達第四十一號ヲ以テ警視病院ナ

警視本署達十二年六月四日  
警視外警視本病院製藥所

自今本病院所管ト心得フヘシ此旨相達候事

警視本署達十二年六月四日  
警視本署達十二年六月四日  
製藥所ノ儀ハ自今其院ニテ管理スヘシ此旨相達候事

警視病院職務心得第一

外ニ依テ消滅ス

十三年一月警視本署達號

警視病院職務心得第一條ヲ刪除シ從來總長ニテ取扱候事務ハ本病院長ニテ主管セシメ候事但第四條中第四項ノ場合ニ於テハ本病院ヘ通報シ來診ヲ乞フヘシ

警視病院製藥所ノ儀ハ自今本病院ニテ管理セシメ候事

右相達候事

警視本署達十二年八月二十三日

其院醫員并掛リ吏員進退剽陟ニ關スルノ外詰替掛替ノ儀ハ第二課長限り指令可致筈ニ付自今該課長宛可伺出爲心得此旨相達候事

警視本署達十二年九月十八日

十三年八月警視木署達第百八十七號ヲ以テ第一病院ノ名稱ヲ改メ十四年三月警視廳達第四十一號ヲ以テ各警視病院ヲ置ス

警視本署達十二年九月十八日

十四年三月警視廳達第百四十一號ヲ以テ各警視病院ヲ置ス

警視本署達十二年九月十八日

十四年三月警視廳達第四十一號ヲ以テ官設治療院ヲ置ス

警視本署達十二年九月十八日

十四年三月警視廳達第百四十一號ヲ以テ官設治療院ヲ置ス

警視本署達十二年九月十八日

十四年三月警視廳達第百四十一號ヲ以テ官設治療院ヲ置ス

警視本署達十二年九月十八日

十四年三月警視廳達第百四十一號ヲ以テ官設治療院ヲ置ス

警視本署達十二年九月十八日

十四年三月警視廳達第百四十一號ヲ以テ官設治療院ヲ置ス

警視本署達十二年九月十八日

十四年三月警視廳達第百四十一號ヲ以テ官設治療院ヲ置ス

警視病院職務心得第一條

正規

正規

正規

正規

正規

シ

第五 檢視上ニ係ル重大ノ診斷ハ必自ラ之ヲナシ其他ハ幹事以下ヲシラ代理セシムル事アルヘシ  
第六 諸願伺届等ヲ出ス時ハ其可否ヲ考案シ異存ナキハ之レニ檢印ヲ捺スヘシ  
第七 凡ソ管内傳染病發起ノ兆候アラハ速ニ其景狀ヲ具申シ各院長協議ノ上豫防方法ノ意見書ヲ差  
出スヘシ

第八 警部補并巡查疾病ニ罹リ入院又ハ引籠リ攝養スヘキモノト確認スルトキハ成規ノ證書ヲ附與スヘシ

第九 警部補以下入院ノ者ハ外出運動適應ト見認ムル時ハ方面掛ノ檢印アル運動證書ヲ附與スヘシ

第十 各分署ヨリ途上急病人又ハ負傷者等アルノ通報アラハ不取敢救急ノ方ヲ施ス可シ  
但萬一分署ノ手ヲ經ルノ間合無之直チニ訴來ル節ハ一時施治ノ上該管轄分署へ照會スヘシ

第十一 第四第八第九第十項ノ如キハ時機ニヨリ幹事ヲシテ代理セシムルヲ得

第二條 副院長 院長欠員ノトキ之ヲ置ク職務院長ニ同シ

第三條 幹事 各院一員ヲ置ク

十三年九月警視本署第九十號ヲ以テ幹事ノ名稱ヲ正副院長ニテ主幹セシム

第一 院長ノ命ヲ受ケ内外ノ庶務ヲ管掌シ當直醫以下ノ勤怠ヲ視察シ異狀アラハ院長ニ具申スヘシ  
第一 非常急遽ニ應スルカ爲メ常ニ院内官舍ニ居住スヘシ  
第三 檢視上ニ係ル診斷ハ院長ノ主務タリト雖モ不在或ハ事故アリテ出張シ難キ時又ハ事ノ重大ナラサルモノハ之ヲ代理スヘシ  
第四 各病院輪番ヲ以テ一名宛各貸坐敷地ヘ出張シ微毒検査ヲ主幹スヘシ  
第五 當直醫及ヒ副當直醫ヲシテ微毒検査掛ヲ兼シメントスル時ハ人選ノ上院長ヘ申出ツヘシ  
第六 入院患者ニ與フル三次ノ食ヲ點檢シ賄人ヨリ出ス所ノ日表帳ニ檢印スヘシ  
第七 時時病室內ヲ巡視シ不攝生又ハ不取締ナキ様注意ス可シ

第八 各醫員ノ進退ニ關スル事件ヲ除クノ外諸願伺届書ヲ作り之ヲ院長ニ出スヘシ  
第四條 當直醫

第一 院長及ヒ幹事ノ指揮ヲ受ケ參院患者ノ代診ヲナスコトヲ得  
第二 非常急遽ニ應スル爲メ輪番ヲ以テ二名宿直ナスヘシ  
第三 各署ヨリ變死人并負傷者アルノ通報アラハ院長又ハ幹事ノ指揮ヲ受ケ直チニ該處ニ出張シ檢  
診ノ上診斷書ヲ作り更ニ院長幹事ノ意見ヲ乞フヘシ  
第四 該方面出火ノ節ハ直チニ其場所ニ出張シ方面掛ヘ届出其指揮ヲ受クヘシ  
但他ノ方面ノ出火タリトモ應援ノ信號アルトキハ本文之通心得可シ

第五條 副當直醫

第一 職務當直醫ニ亞ク

第二 看護掛ヲ置カナル病院ニアリテハ其事務ヲ兼任セシムルコトアルヘシ  
第三 院長并幹事等病室ヘ廻診スル時ハ隨從シテ病症經過及ヒ處方等ヲ詳細登録スヘシ  
ルトキハ修理ノ手順ヲナスヘシ

第六條 看護掛

第一 輪番ヲ以テ宿直ヲナシ屢病室ヲ巡視シ患者不攝生ナキ様精密看護ニ注意スヘシ

第二 院長并幹事等病室ヘ廻診スル時ハ隨從シテ病症經過及ヒ處方等ヲ詳細登録スヘシ

第三 看護婦ノ勤怠ヲ監督シ其黜陟スヘキハ會計掛協議ノ上幹事ヘ申出ヘシ

第四 警部補巡查入院スル節ハ其等級姓名ヲ詳細帳簿ニ記載スヘシ

第五 入院患者變症ヲ發スル等總テ異狀アラハ速ニ宿直醫員ニ申告スヘシ

## 第七條 調薬監

第一 調薬ニ係ル一切ノ事務ヲ管掌シ調薬掛ノ勤怠ヲ監視シ調剤上誤謬ナキ様注意スヘシ  
 第二 醫員ヨリ送付スル處方ヲ受ケ勘査ノ上検印ヲナシ調薬掛ヘ附與シ調剤セシムヘシ  
 第三 製薬所ヨリ受取ル薬品ノ精粗ヲ審査シ若シ不良ノ品アラハ其旨ヲ院長ニ申稟シ交換ヲナスヘシ

第四 一箇月一回薬品ノ出納ヲ調査シ之ヲ帳簿ニ登記スヘシ

## 第八條 調薬副監

調薬監缺員及ヒ不在ノ節ハ其事務ヲ代理執行スヘシ

## 第九條 調薬掛

第一 調薬監ノ指揮ヲ受ケ調剤ヲナシ其都度處方箋月日ノ下ニ押印ヲナスヘシ  
 第二 附與セラル所ノ處方箋ヲ審接シ若シ疑難アラハ調薬監ニ質問シ些ノ事タリト雖モ臆斷ヲ以テ調剤スヘカラス  
 第三 薬品及ヒ器械等闕乏ナキ様日日調査シ若シ闕乏品アラハ院長又ハ幹事及ヒ調薬監ノ検印ヲ得テ受取方製薬所ヘ照會スヘシ  
 第四 輪番ヲ以テ一名宛宿直ヲナスヘシ  
 第五 日日出納スル薬品ハ薬品出納日表ヲ製シ詳記シ置クヘシ

警視本署達十三年一月三十日

警視本署達十三年一月三十日  
無期各病院

## 變死之部

傷死 器械的ノ毀傷即チ振盪傷、其傷ヲ受ケサルモ亦此部ニ算入ス 挫傷、突傷、打傷、銃傷、咬傷、裂傷、骨

死 中毒 鐵物性、植物性、動物性、及ヒ酒精瓦斯類等ノ中毒ニテ死ニ至リシ者ヲ算入ス

窒息死 傷等ニテ死ニ至リシ者ヲ算入ス

死 中毒 外物ニヨリ呼吸氣道閉塞セラレ即チ手巾等ヲ以テ口鼻ヲ塞キ單ニ窒息シテ死ニ至ル者ヲ算入ス

死 室死 シテ敢テ溺縊以下瓦斯中毒等ノ爲メ窒息死ニ至ル者ヲ算入ス

死 壓扼 手腕ヲ以テ咽喉ヲ壓搾セラレ又ハ人民群集中ニ在テ劇シク逼塞ヲ受ケ胸膈運動ヲ妨止セラレ

死 燒死 死ニ至リシ者及ヒ家屋木材土石等ノ轉覆セシ際ニ押壓ヲ受ケ死ニ至リシ者ヲ算入ス

死 湯火傷及ヒ製造局等ニ在テ火薬又ハ化學的藥品等ノ爲メニ傷害ヲ受ケ死ニ至リシ者ヲ算入ス

死 病死 其原因不分明途上等ニ於テ俄然卒倒シ死ニ至リシ者及ヒ内科的諸病ニ罹リ死ニ至リシ者ヲ算入ス

死 縊死 自ラ縊レテ死ニ至リシ者又ハ他人ノ爲メニ縊殺サレタル者モ此部ニ算入スヘシ

警視本署達第十三年八月二十六日

今般從前之警視病院ヲ廢シ更ニ警視病院并微毒病院左之通取設候條此旨相達候事

芝警視病院 元第二病院

淺草警視病院 第一分局 元第一病院

芝警視病院 第二分局 元第二病院

淺草警視病院 第二分局 元第六病院

同 第二分局 元第四病院

麹町微毒病院 元第三病院

警視本署達第十三年八月二十六日

警視本署達第十三年八月二十六日

本郷微毒病院 元第四病院

警視本署達第十三年八月二十六日

今般警視病院更ニ取設候ニ付テハ警察上ニ係ル醫務及ヒ警部補已下ノ患者取扱方并受持左ノ通相定候

條此旨相達候事

一警部補已下入院治療ヲ要スル者及ヒ變死傷者檢診出火場出張等警察上ニ係ル一切ノ醫務ハ芝淺草

兩病院ニ於テ管理スル事

一警部補已下入院ヲ要セサル一時ノ疾病ハ各分局ニ於テ取扱フ事

一第一方面第三方面ハ芝病院第四方面第五方面第六方面ハ淺草病院受持ノ事

一途上ニ於テ急病ヲ發セシ者一時手當ノ事

一變死傷者檢視立會ノ事

但事ノ重大ニ係ル者ハ院長ノ出張ヲ乞フヘシ

一出火場出張ノ事

警視本署達第十三年九月四日

今般警視病院醫事取扱之儀達ニ及ヒ候處更ニ左ノ件件各分局ニ於テ爲取扱候條此旨相達候事

一途上ニ於テ急病ヲ發セシ者一時手當ノ事

一變死傷者檢視立會ノ事

但事ノ重大ニ係ル者ハ院長ノ出張ヲ乞フヘシ

警視本署達第十三年九月四日

今般警視病院幹事ノ名稱ヲ廢シ從前幹事ニ於テ取扱候事務ハ正副院長ニテ主管セシメ候條爲心得此旨

相達候事

警視本署達第十三年九月三十日

明治九年八月達第七十三號入院規則第十五條左之通改正候條此旨相達候事

入院規則

第十五條 入院患者外來ノ人ト應接ノ時限ハ午前第一時ヨリ午後四時迄タルヘシ其他一切外人ト應接ヲ許サス

但公事ノ外已ムヲ得サル事情アルトキハ臨時醫局ヘ申出ヘシ

警視廳達(十四年二月八日)

警視病院并徽毒病院ノ儀於其局管理可致此旨相達候事

警視廳達(十四年三月二十八日)

芝淺草兩警視病院廢止候事

巡查部長并巡查尋常疾病ニヨリ官費治療之儀自今廢止候事

但職務ノ爲メ負傷傳染病ニ罹ルノ類ハ此限ニアラス

右相達候事

警視廳達(十四年三月二十二日)

警視廳監獄監獄ノ監獄病院ト改稱シ職務心得左之通相定候條此旨相達候事

第一條

職務總テ各病院長ニ同シ

第二條

院長

第三條

副院長

副院長  
職務各病院副院長ニ同シ

第四條

取締

第一 徽毒検査ヲ除クノ外職務總テ各病院取締ニ同シ

第二 病檻ノ患者出入アレトキハ其監號役囚ノ年刑工作ノ番號姓名等遺漏ナク出入簿ニ記載シ押印

第三 患者診察ノ上檻號姓名等配剤錄ニ詳記シ處方箋ハ藥室ニ付與スヘシ

第四 新タニ入ルノ囚徒及ヒ役囚ヘ差入レ物等ヲ精密ニ検査スヘシ

第五 囚徒病ニ罹リ親戚ヘ責付中ノ者アラハ時時其家ニ就キ診察シ診斷書ヲ添ヘ其事由ヲ院長ヘ申

稟スヘシ

第六 變死人及ヒ負傷者アル旨通報アラハ取締ノ指揮ヲ受ケ直ニ出張シ之ヲ診按スヘシ若シ診決シ難キ者ハ速ニ取締ニ申告スヘシ

第五條

當直醫

第六條

職務總テ當直醫ニ同シ

調藥監

衛生門 病院

第七條 職務各病院調藥監ニ同シ

藥調副監

職務各病院調藥副監ニ同シ

第八條 調藥掛

職務各病院調藥掛ニ同シ

警視本署達十二年二月三日  
番外監獄病院

其院醫員進退ニ關スル事件ハ豫テ署長へ協議ヲ經然ル後上申可致儀ト可相心得此旨相達候事

警視本署達十二年十一月六日  
第三百三十五號

監獄病院并該院出張所位置左之通移換候條此旨相達候事

監獄病院

監獄署内

同第一出張所

同第二支署内

警視本署達十三年三月二十七日  
四號

監獄病院職務心得別紙之通改正候條爲心得此旨相達候事

(別紙)

警視本署監獄病院發具	十四年三月内務省達乙第
警視本署監獄病院發具	十五號ニ依テ監獄病院ヲ廢止ス官職門地方官副ノ目ニ載ス
警視本署監獄病院井出	十四年三月内務省達乙第
警視本署監獄病院發具	十五號ニ依テ廢止ス官職門地方官副ノ目ニ載ス
警視本署監獄病院發具	十四年三月内務省達乙第

監獄病院職務心得

第一條 院長 一員ヲ置ク

第一 該院并ニ出張所一切ノ醫務ヲ管掌シ幹事以下各醫員ノ勤怠及ヒ治術ノ巧拙ヲ監視シ其馴防スヘキハ署長ト裏議シ第二課長ヘ具申スヘシ

第二 凡ソ入院ノ患者ハ懸切ニ治療ヲナシ幹事以下ヲシテ病室内ヲ時時巡回セシメ不攝生ナキ様注意スヘシ

第三 監内一切ノ衛生并警察醫事ヲ主宰スヘシ

第四 監内ニ重症又ハ難症ノ患者アリテ廢篤疾或ハ不治症ト認ルトキハ警部立會ノ上診斷スヘシ

第五 檢視上ニ係ル重大ノ診斷ハ必自之ヲナシ其他ハ幹事以下ヲシテ代理セシムルコトアルヘシ

第六 諸願宿居等ヲ出ストキハ其可否ヲ考案シ異存ナキハ之ニ検印スヘシ

第七 凡ソ監内傳染病發起ノ兆候アラハ速ニ其景狀ヲ第一課長ニ具申シ署長ト協議ノ上精精豫防ニ注意スヘシ

第二條 副院長

院長ヲ補助シ院長在ラサルトキハ其事務ヲ代理スヘシ

第三條 幹事

該院并出張所共一員宛ヲ置ク

第一 院長ノ命ヲ受ケ内外ノ庶務ヲ管掌シ當直醫以下ノ勤怠ヲ視察シ異狀アラハ院長ニ申告スヘシ

第二 院長不在中ハ各醫員ノ進退ニ關スル事件ヲ除クノ外之ヲ代理スルコトヲ得

第三 懲治未決已決拘留禁獄苦使ノ患者ヲ調査シ月表ヲ編製シテ署長并院長ヘ申稟スヘシ

第四 檢視上ニ係ル診斷ハ院長ノ主務タリト雖モ不在或ハ事故アリテ出張シ難キトキ又ハ事ノ重大

ナラザルモノハ之ヲ代理スヘシ

第五 常ニ各監内工作場等ヲ巡視シ各囚衛生上ニ注意スヘシ

第六 每朝入院患者ノ診察ヲ懇切ニナスヘシ

但患者危篤症ト見認ルトキハ直ニ診斷書ヲ以テ署長ヘ通知スヘシ

第七 病囚死亡ノ節ハ看守警部立會ノ上診斷書ヲ以テ申稟スヘシ

第八 監内傳染病ノ兆候發起スルトキハ直ニ検診シ院長ヘ稟議シ當直醫以下ヲ指揮シテ豫防并治療法ヲ專擔スヘシ

第九 時時病室内ヲ巡視シ不攝生不取締等ナキ様注意スヘシ

第十 各醫員ノ進退ニ關スル事件ヲ除クノ外諸願伺届書ヲ作り之ヲ院長ニ出スヘシ

#### 第四條

##### 當直醫

第一 院長及ヒ幹事ノ指揮ヲ受ケ監内患者ノ診察ヲナシ之ヲ懇切ニ取扱フヘシ  
第二 入院患者出入アルトキハ其監號役囚ノ年刑工作ノ番號姓名等遺漏ナク出入簿ニ記載シ押印スヘシ

第三 患者診察ノ上監號姓名年齡病名原因經過等配劑錄ニ詳記シ處方箋ハ藥室ニ附與スヘシ

第四 入院患者ニ與フル三次ノ食ヲ検査シ及ヒ囚徒ヘノ差入食物等ニ注意スヘシ

第五 囚徒重病ニ罹リ親戚ヘ責附中ノ者アラハ時時其家ニ就キ診察シ診斷書ヲ添エ幹事ヘ申稟スヘシ

第六 監内變死人及ヒ負傷者アル旨通報アラハ院長又ハ幹事ノ指揮ヲ受ケ直ニ該所ヘ出張シ検診ノ上診斷書ヲ作り更ニ院長幹事ノ意見ヲ乞フヘシ

第七 非常急劇ニ應スルタメ輪番ヲ以テ一名宛宿直スヘシ

第八 新入ノ囚徒ハ直ニ其體格ヲ検査シ其強弱ニ應シ就役ノ輕重ヲ區分スヘシ

#### 第五條

##### 但帶患ノ者ハ其病症ニ應シテ直ニ處置スヘシ

第九 夜中急病ノ報知アラハ其監ニ就キ警部立會ニテ診察シ相當ノ處置ヲナスヘシ

第十 宿直醫員ハ毎朝開監直ニ就役シ難キ者ヲ診察シ病ノ輕重ニヨリ入院或ハ居監引籠或ハ輕役力役等ノ區別ヲナスヘシ

第十一 外科器械并書籍等ハ其名稱員數等ヲ詳記シ簿冊二様ヲ製シ之ニ幹事ノ捺印ヲ受ケ置クヘシ

#### 第六條

##### 副當直醫

第一 職務當直醫ニ亞ク

第二 内外患者ノ藥餌攝生ヲ説諭シ看護人ノ勤怠ヲ注意スヘシ

第三 一名又ハ二名ヲ以テ該院貯藏ノ器械ヲ主管シ手術アルトキハ之カ準備ヲナシ若破損等アルトキハ修理ノ手順ヲナスヘシ

第四 院長及ヒ幹事等病室ノ回診アルトキハ隨從シテ其病症經過處方等ヲ登錄シ藥劑ノ用方用量ヲ看護人又ハ患者ニ懇諭スヘシ

#### 第七條

##### 調藥監

第一 調藥ニ係ル一切ノ事務ヲ管掌シ調藥掛ノ勤怠ヲ監視シ若異狀アラハ幹事ニ申出ヘシ

第二 醫員ヨリ送附スル處方箋ヲ受ケ勘查ノ上検印シ調藥掛ヘ付與シ誤謬ナキ様調劑セシムヘシ

第三 藥品ノ眞贋及ヒ精粗ヲ審查シ若不良品アラハ直ニ其旨ヲ幹事ニ申稟シ交換ヲナスヘシ

第四 一箇月一回藥品ノ出納ヲ調查シ之ヲ帳簿ニ登記シ月表ヲ編製シ幹事ヘ差出スヘシ

第五 調藥掛ヨリ差出セシ諸願伺届書等ハ總テ之ニ檢印シ幹事ヘ差出スヘシ

#### 第八條

##### 調藥副監